

平成27年度事業計画

<公益財団法人電通育英会の事業目的の確認（定款第3条より）>

公益財団法人電通育英会は、優秀でありながら経済的な理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等を対象とした人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

<平成27年度事業計画について>

一昨年の年末以来の円安基調により、当財団の平成27年度の経常収益は、前年度と同様に5億円を上回る収益が見込まれます。当面は同程度の収益が継続すると見込まれるため、育英事業の拡充を図ります。具体的には以下の5つ。

- 1) 消費税及び物価の上昇などに対応するため、大学生へ給付する奨学金額を月5万円から6万円に増額し、新入生はもとより既に奨学生となっている2～4年生も含めて平成27年4月より給付します。

（詳細は第2号議案で審議いただきます）

- 2) 平成27年4月入学の大学給付奨学生（一般、芸術）からは、入学一時金20万円の支給が開始されます。（平成26年3月第10回理事会にて承認済み）
なお大学給付奨学生（震災支援）については、従来より入学一時金30万円を支給しています。

- 3) 大学給付奨学生を対象に、優れた学業成績や活動を表彰する制度を新たに導入致します。（詳細は第2号議案で審議いただきます）

- 4) 大学給付奨学生及び大学院奨学生を対象に平成26年度より開始した「海外留学・活動支援」制度について、上限金額や支援金額の増額を行います。

（詳細は報告3にてご報告します）

- 5) 平成27年度の募集より、大学給付奨学生（一般）の募集人数を前年より5名増やし55名とし、また大学院奨学生（国内）の募集を10名以内から10名程度と幅をもたせます。（大学院生については第3号議案で審議いただきます）

他方、新規の募集を中止している大学貸与奨学生は平成 27 年 3 月をもって全員卒業致しましたので、27 年度新規の貸与及び成績優秀による返還免除は生じません。

また、中国からの大学院留学生につきましては、26 年度採用の 5 名で協約期間の 5 年間に満了となりましたので、27 年度、新規の採用は行いません。なお、奨学金給付中の奨学生については、3 年間の給付期間終了まで奨学金の給付を継続致します。（韓国については 3 年間の協約期間で、既に満了となっています）

1-1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業 1>

(1) <一般枠>大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

平成 27 年度の大学進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成 26 年 6 月に行ない、平成 26 年 7 月の選考委員会で 61 名が内定しました。前年度の一浪生 5 名も含めた 66 名の内定者のうち、平成 27 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金の給付を開始します。

27 年度の給付者総数は、24 年度採用の 47 名、25 年度採用の 52 名、26 年度採用の 45 名、合わせて、210 名（想定）となります。

また、平成 27 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で、在学学校長から推薦された者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定大学への入学を条件とする。理工学系、医薬系を除く。
- ②給付金額：入学一時金 200,000 円のほか、月額 60,000 円、期間は最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 55 名程度。
- ④採用方法：予約採用者は、主要国立大学進学者数ランキング上位の公立高校（全国約 150 校）より各校 1 名推薦された候補者の中から、選考委員会での書類選考、選考委員による面接選考を経て、理事長が決定する。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）

一般枠奨学金：（27年度予算）164,400,000円 @92万円×66名+@72万円×144名
（26年度予算）126,600,000円 @60万円×211名

(2) <芸術枠>大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

当財団の特色を出すための制度で、平成23年度入学から奨学金を支給しています。

平成27年度の芸術系の大学・学部進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成26年6月に行ない、平成26年7月の選考委員会で9名が内定しました。前年度の一浪生3名も含めた12名の内定者のうち、平成26年4月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金支給を開始します。

27年度の給付者総数は、24年度採用の5名、25年度採用の9名、26年度採用の4名と合わせて30名(想定)となります。

また、平成27年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校(全国150校)の3年生で、在学学校長から推薦された者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。
- ②給付金額：入学一時金200,000円のほか、月額60,000円、期間は最長4年間。
- ③予約採用者数：年間10名程度。
- ④採用方法：「(1) <一般枠>大学生への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)

芸術枠奨学金：(27年度予算) 24,000,000円 @92万円×12名+@72万円×18名
(26年度予算) 16,800,000円 @60万円×28名

(3) <震災支援枠>の大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成23年3月11日の東日本大震災で被災した者を対象とした奨学金制度です。

平成27年度の大学進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成26年6月に行ない、平成26年7月の選考委員会で13名が内定しました。当該内定者のうち平成27年4月に当財団指定の大学に入学した者に対し、新たに入学一時金の支給と奨学金の給付を開始します。

27年度の給付者総数は、24年度採用の3名、25年度採用の3名、26年度採用の2名と合わせて21名(想定)となります。

[平成27年度以降の募集・予約選考作業について]

この<震災支援枠>の奨学金等は、平成23年6月の理事会で決議された「特定費用準備資金」からの支出です。平成24年度から26年度までの3年間、各年15名(計45名)の採用を予定していました。しかし、45名の採用枠に対し現在までに21名(想定)が採用されましたが、まだ24名の採用枠が残っています。

上記の「特定費用準備資金」は、平成23年東日本大震災の被災者に対する支援を限定目的としたものですので、他の公益目的事業に残金を振り向けることは原則として、できません。

そこで平成27年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が対象とする公立高校3年生で、東日本大震災で被災した者、またその影響で困難な生活を送る者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の大学への入学を条件とする。
- ②給付金額：入学一時金300,000円のほか、月額60,000円、期間は最長4年間。
- ③予約採用者数：年間15名程度
- ④採用方法：予約採用者は、岩手県・宮城県・福島県内のランキング上位の公立高校（64校）の校長から推薦された候補者の中から、選考委員会での書類選考、選考委員による面接選考を経て、理事長が決定する。
*応募条件は、1年生・2年生の学業成績評定平均3.5以上
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）

震災支援枠奨学金：（27年度予算）19,020,000円 @102万円×13名+@72万円×8名
（26年度予算）6,300,000円 @90万円×3名+@60万円×6名

（4）大学給付奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付

当財団の大学給付奨学生を対象に、海外留学・活動を希望する者に対して支援金を給付する制度を平成26年度に導入しました。この1年間の支援実績を踏まえ、内容を拡充のうえ27年度も継続致します。

拡充の詳細は報告3（「海外留学・活動支援規程」改訂のご報告）で報告いたします。

大学生海外留学・活動支援金：（27年度予算）7,000,000円
（26年度予算）7,000,000円

1-2 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

平成 25 年度採用から、大学院奨学生の対象を当財団の大学給付奨学生に限定する制度に変更しています。

(1) 大学院奨学生（学部予約）への奨学金給付

平成 27 年度の大学院進学予定者に対して、給付奨学生の募集を平成 26 年度に行ない、選考委員会で 10 名を採用内定としました。このうち、平成 27 年 4 月に当財団指定の大学院に進学した者に対し、大学院修士課程 2 年間、月額 8 万円の奨学金給付を開始します。

平成 27 年度の給付者総数は、25 年度採用（休学中）1 名と 26 年度採用の 5 名と合わせて 16 名（想定）となります。

また、平成 27 年度の大学院進学予定者について、下記の通り募集・選考を行います。

- ①給付対象： ・当財団の大学給付奨学生で、書類提出やセミナー参加などの奨学生の義務を果たしていること
・キャリア形成上、修士課程への進学に必然性が認められる者
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間： 月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする
- ③予約採用者数： 10 名程度
- ④採用方法： 選考委員会での書類審査、選考委員による面接を経て理事長が決定する。

大学院生奨学金： (27年度予算) 14,880,000円 @96万円×15名+48万円(*)
(26年度予算) 14,240,000円 @96万円×14名+80万円(**)
(*休学により6ヶ月間だけ奨学金を給付。(**)休学により10ヶ月間だけ奨学金を給付。

(2) 大学院給付奨学生を対象とした「海外留学・活動支援金」の給付

当財団の大学院奨学生を対象に、海外留学・活動を希望する者に対して支援金を給付する制度を平成 26 年度に導入しました。この 1 年間の支援実績を踏まえ、内容を拡充のうえ 27 年度も継続致します。

拡充の詳細は報告 3（「海外留学・活動支援規程」の一部改訂のご報告）で報告いたします。

大学院生海外留学・活動支援金： (27年度予算) 1,000,000円
(26年度予算) 1,000,000円

(3) 大学院留学生（現地採用）への奨学金給付

平成 22 年度から行っておりました中国からの大学院留学生の受け入れは、平成 26 年度の採用をもって 5 年の協約期間満了となり、中国教育部との合意により終了となりました。

平成 27 年度の給付者総数は、24 年度採用の 4 名、25 年度採用の 6 名と 26 年度採用の 5 名合わせて 15 名で、月額 16 万円の奨学金を給付します。

留学生奨学金： (27 年度予算) 24,960,000 @192 万円×11 名+@96 万円× 4 名
(26 年度予算) 29,760,000 @192 万円×10 名+@96 万円×11 名

<参考>今後3年間の奨学生数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
大学給付奨学生（一般） 〈高校予約〉	7年目 1年生～4年生 210名	8年目 1年生～4年生 218名	9年目 1年生～4年生 221名
大学給付奨学生（芸術） 〈高校予約〉	5年目 1年生～4年生 30名	6年目 1年生～4年生 35名	7年目 1年生～4年生 36名
大学給付奨学生（震災支援） 〈高校予約〉	4年目 1年生～3年生 21名	5年目 1年生～4年生 33名	6年目 1年生～4年生 39名
大学院給付奨学生	3年目 1年生～2年生 16名	4年目 1年生～2年生 20名	5年目 1年生～2年生 20名
大学院給付留学奨学生 * 半滞在者を除く	6年目 中国 15名 韓国 0名 計 15名	7年目 中国 11名 韓国 0名 計 11名	8年目 中国 5名 韓国 0名 計 5名

2. 奨学生対象のセミナー等の実施 <公益事業1>

(1) 奨学生全員に対する「奨学生の集い」の実施

毎年恒例の「奨学生の集い」を、平成 27 年度も現役奨学生全員（約 300 名）、OB/O
Gの参加希望者、大学関係来賓等が一堂に会して、11 月に東京で開催します。

講演：未定

開催日：11 月 21 日（土）

会場：電通ホール

奨学生の集い関連費用： (27年度予算) 9,700,000円
 (26年度予算) 9,660,000円 *奨学生の交通費含む

(2) 大学給付奨学生に対するセミナーの実施

大学給付奨学生の 1 年生から 3 年生に対して、研修セミナーへの出席を義務付けています。
汎用的スキルや課題解決力の育成などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、次
世代人材を育成する一助とします。9 月に 1 泊 2 日の合宿形態で実施します。

1 年生対象：ロジカルコミュニケーション研修

2 年生対象：課題解決力養成研修

3 年生対象：自己分析とキャリアデザイン研修

* 4 年生については、3 月に開催する「修了生交流会」への全員参加をもって代替します。

大学生セミナー関連費： (27年度予算) 10,670,000円
 (26年度予算) 9,450,000円 *奨学生の交通費含む

(3) 大学院奨学生に対するセミナーの実施

大学院奨学生および大学院留学奨学生に対して、セミナーを 1 泊 2 日の合宿形態で実施し
ます。内容は、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、グループ討議、交流会で構成
します。

大学院生セミナー関連費： (27年度予算) 2,500,000円
 (26年度予算) 2,490,000円 *奨学生の交通費含む

(4) 修了生交流会

卒業予定の大学給付奨学生及び大学院修了生（留学生含む）を対象としています。奨学生の修了・卒業後の各界での活躍を期待して、当財団の選考委員、大学関係者など来賓出席のもと、「修了生交流会」を3月に東京の品川で開催します。

修了生交流会関連費：	(27年度予算)	4,000,000円	
	(26年度予算)	4,040,000円	*修了生の交通費含む

3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供 <公益事業1>

(1) 会報誌「IKUEI NEWS」の発行（年4回）

平成26年度は引き続きシリーズ特集テーマを「自分を育てる学生生活の過ごし方」とし、4月号「就職活動を通じた社会人としての学び」、7月号「異世代との人間関係で対人関係能力を培う」、1月号「アクティブラーニング型授業を履修する」を特集しました。いずれのテーマについても、大学教職員やキャリア教育の研究者へのインタビューと大学生の意見や感想を取材しました。

10月号では、26年7月に京都大学・東京大学と共同開催した『大学生研究フォーラム』を特集しました。

27年度も、大学生のキャリア形成や大学生活を中心に、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。また「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「アメリカン・キャンパス・ライフ」等の連載企画は継続する予定です。

主要読者層は給付中の奨学生及びOBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、奨学財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、新たに大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。部数は、「大学生研究フォーラム」参加者等から毎年30名前後の定期送付希望者があるなど増加傾向で、27年度は各号約4,000部を見込みます。

会報誌関連費：	(27年度予算)	26,000,000円
	(26年度予算)	25,930,000円

(2) 調査研究

平成27年度は、25年11月に実施した第3回大学生キャリア意識調査のデータ解析及び知見の発見作業を京都大学（溝上研究室）、東京大学（中原研究室）と共同で行ないます。また、その追跡調査として大学生・社会人を対象としたワークショップを行います。導き出された知見は、大学生研究フォーラムで報告する他、ホームページで公開するなど、大学生研究の幅広い活用を促進します。

さらに、平成26年度から始めた「当財団奨学生のキャリア追跡調査」を継続します。学部4年間の学業成績をはじめ、当財団のセミナー出席状況などを個人別に整理すると同時に卒業後の進路や進路先での活躍実態などを聴取し、データベース化します。このプロジェクトは、法政大学キャリアデザイン学部の児美川研究室の協力を得て実施します。

調査関連費：	(27年度予算)	5,500,000円
	(26年度予算)	4,920,000円

(3) 第8回大学生研究フォーラムの開催

大学生キャリア意識調査の結果など大学生研究成果の情報発信の場として、また大学生研究の課題発見のための場として、毎年「大学生研究フォーラム」を開催しております。教育学・心理学・青年若者論等の教員・研究者及び高校教諭、学生を対象にシンポジウムの内容を充実させてきました。

平成 27 年度のフォーラムも、京都大学・高等教育研究開発推進センター、東京大学・大学総合教育研究センターとの 3 者共催で、「大学教育に必要なのは『プロジェクト』か『プロジェクト学習』か?」というテーマのもと、基調講演、セッション等で構成します。

なお従来併催していた「高校教員のためのシンポジウム」の代わりに、平成 27 年度は人材育成に関わる若手研究者を対象とした「チュートリアル・セッション」を前日に行います。フォーラムの内容は、IKUEI NEWS 10 月号にて特集し、同時にホームページにも掲載する予定です。

フォーラム関連費：	(27年度予算)	8,000,000円
	(26年度予算)	7,780,000円

4. 大学生を対象とした人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成 <公益事業2>

学生を対象とした人材育成を目的として、インターンシップ、ボランティア活動、その他セミナー活動などを行っている大学内組織や民間NPO団体を主な対象として、活動計画を広く募集し、選考委員会にて書類選考・面接選考を行った上で、平成27年度は、応募総数35件から選考される団体による人材育成活動に対して、資金助成をいたします。

100万円助成、50万円助成とも、各5団体を想定しています。

28年度に向けて、下記の通り募集・選考作業を行います。

募 集：10月に、若者対象の人材育成活動、キャリア支援活動を行う首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)の非営利組織に対して、募集要項を送付。同時にホームページにも募集要項を掲載。1月中旬が応募締切。

選 考：2月に、選考委員会にて書類審査を行い、その後、活動計画のプレゼンを受けて選考する。

<選考基準>

大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

人材育成活動助成事業関連費： (27年度予算) 8,600,000円
(26年度予算) 8,520,000円

参考<大学内組織、NPOによる大学生等のキャリア形成支援活動(26年度採択)>
(助成金額100万円)5件

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| ・上智大学ボランティアセンター | 東日本大震災復興支援ボランティア事業 |
| ・中央大学被災地支援学生団体 | 復興支援を通じた防災リーダー育成プロジェクト |
| ・NPO さいたまNPOセンター | NPO・大学ネットワーク インターンシッププログラム |
| ・NPO 学校インターネット教育推進協会 | 次世代情報化社会を担う人材育成プロジェクト |
| ・NPO ピルコン | 正しい性知識に関する普及啓発事業 |

(助成金額50万円)5件

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| ・法政大学ボランティアセンター「チームオレンジ」 | 岩手・宮城 被災地のスタディツアー |
| ・NPO キズキ | ひきこもりへの学習支援を通じた人材育成 |
| ・NPO アクションポート横浜 | インターンシップ事業 |
| ・NPO I a m OKの会 | 発達障害児への遊びと学びを通じた人材育成 |
| ・リカバリーキャラバン隊 | 精神障害者のリカバリー支援者養成事業 |

平成 27 年度主要行事 年間日程 予定表

	日 程	場 所
第14回理事会（決算）	6月8日(月)11:00～	帝国ホテル 松の間
第5回定時評議員会	6月23日(火)11:00～	帝国ホテル 松の間
第15回理事会(理事長選任)	6月23日(火)14:00～	帝国ホテル 松の間
奨学生選考委員会(全体)	7月10日(金) 予定	銀座電通ビル8F会議室
大学生研究フォーラム	7月23日(木) 24日(金)	京都大学
大学院生セミナー	8月8日(土) 9日(日)	クロスウェーブ幕張
大学生セミナー	9月12日(土)13日(日)	湘南国際村センター
資産運用委員会	10月23日(金)15:00～	電通銀座ビル4F会議室
第16回理事会（資産運用等）	11月20日(金)11:00～	電通銀座ビル8F会議室
奨学生の集い	11月21日(土)	電通ホール
資産運用委員会	平成28年2月26日(金)予定	電通銀座ビル4F会議室
修了生交流会	平成28年3月6日(日)予定	品川ストリングスホテル予定
第17回理事会（予算）	平成28年3月下旬予定	帝国ホテル 予定